

## 冬の長崎の旅

12/17/2012

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

12月初旬、初めての地長崎に行ってきました。

初日は、羽田空港から一路長崎空港(大村市)迄飛び、その後約50分間バスに乗り、ハウステンボス(佐世保)に到着。中国との尖閣列島問題なのか、中国人観光客がおらず平穏な観光地になっており、私にとっては静かで落ち着いたひと時を過ごすことができました。何と云っても見どころは冬の期間開催の「イルミネーション」です。

翌日は、長崎駅までローカル線の快速に乗り、車窓からの眺めを楽しみました。本当に島の多い長崎県です。長崎市内では、主要な観光地を「市電」に乗ってまわりましたが、市電は日中でも8分間隔、また路線バスも多く走っており、移動には大変手軽で街の人の雰囲気味わえる乗り物でした。一律120円の料金は手軽です。そのためか、タクシーの台数が少ないように思えました。長崎市内は海岸まで山並みが迫っており、その傾斜地に住居や学校がありました。以前は3万人くらいでしたが、現在では40万人都市とのこと。軍港そして観光の街でした。

### 1. 郷土の味 卓袱(しっぽく)料理

異文化を受け入れた長崎の地で「卓袱(しっぽく)料理」をいただきました。卓袱とは、和・唐・蘭(日本・中国・西洋)の3か国の料理が円卓の皿に盛りつけられたものをいうそうです。その円卓は朱色で現在も長崎の郷土料理としてふるまわれているようです。料理は、最初に「おひれ」という甘い吸い物が出て、それをいただいたあとに宴が始まるというものです。そのあとに食事をいただき、最後にまた「甘いもの」でしめるといいます。伝統的な異国情緒にある土地ならではのものです。

私が今回食べたのは、思案橋に店を構える「長崎浜勝」でした。長崎ちゃんぽん発祥の「リングーハット」はチェーンのようです。

写真は、女性向けの比較的少ない品数の御膳です。みなさんもぜひ長崎に行かれたら召し上がってみてはどうでしょうか。豚の角煮、地元の刺身、揚げ物と多彩な味を堪能できることでしょう。



### 2. 開園20周年のハウステンボス

今年開園20周年の長崎ハウステンボス。経営不振があり、現在は大手旅行代理店のHISが経営しています。ホテルと言ひ、嗜好と言ひ、大変大人的な感じを受けました。私の年齢になりますと、落ち着いた雰囲気があったらと思っただけでしたが、ゾーンによってそれぞれ趣があり、私にとっては、「パレスハウステンボス(写真は庭園)」の雰囲気が非常に気に入りました。

写真の庭園は、オランダで設計されたのですが、実際には実現しなかった幻の庭園を日本で再現

したそうです。年配の方はさぞ落ち着かれることと  
感じました。

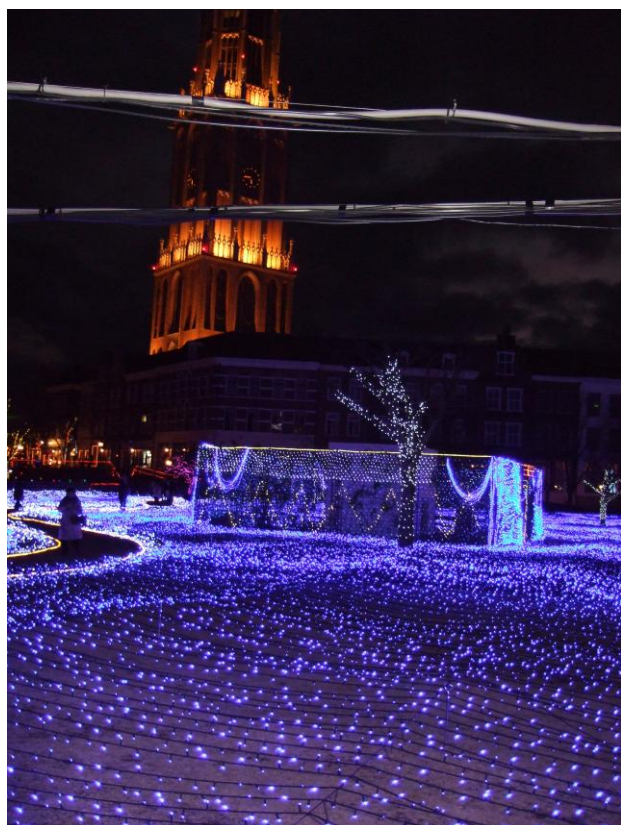
西洋の建物、そしてアトラクションあり、どの世代  
にも楽しめるハウステンボスでした。

また、冬の期間 1000 万球のイルミネーションが輝き、  
それも、「クリスタルブルーウェイブ」と言って、波のよう  
に輝いているのが素晴らしかったですが、外は寒く早々  
と引き上げてきました。



オランダバロック式庭園↑

ドモトルーン塔からみた「ひまわり」↓



↑クリスタルウェーブ(実際には波打っているリア  
ルな感じです)

生花とドライフラワーで作った巨大ゴッホ像→



写真にあるように、冬は花を咲かすのが難しいようで、このような、縦 11m 横 10m のゴッホ像は  
生花とドライフラワーで作り展示してありました。これはスケールの大きさもありますが、丁寧な  
花の組み合わせにいたく感動しました。



### 3. 長崎市内観光地

長崎市内では、主要観光地の、1863年に建設された「グラバー園」。坂本龍馬が幕末・維新時代に現代版企業のルーツとも言える「亀山社中跡めぐり」。歓楽街の「思案橋」。原爆の慰霊地「平和公園」と「浦上天主堂」を巡りました。現地での説明に聞き入り、長崎のルーツをすることが出来ました。もともと長崎は小さな村に過ぎなかったようですが、1571年にポルトガル船が初めて長崎に入港してから、キリスト教心者が住むようになったが、豊臣秀吉の追放令により迫害を受けたようです。その後オランダ人が住み、外国との窓口として「出島」を中心に貿易が盛んに行われ、現在の長崎の下地ができたようです。その後、坂本龍馬が活躍する現代企業版「亀山社中」が登場するのです。

長崎と言ったら、もうひとつ港町。軍艦「武蔵」が建造されたところでもあり、そのようなところから原爆の投下があったようにも聞きました。それらは三菱グループが引き受け、まさに企業城下町の雰囲気そのものでした。ひし形の文様が多く見られました。やはり、天下の三菱という感じを受けた次第です。

以上

平和公園で、修学旅行の高校生の団体。  
献花と千羽鶴を奉納していました。  
その後、グループに分かれてガイドから説明を聞いている顔は真剣でした。



長崎市内の墓地風景です。  
墓石の「名前刻書」部分は全て金色です。  
どの墓もそうでした。

